

## 第三者評価結果シート（乳児院）

種別	乳児院
----	-----

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人エール・フォーユー
--------------------

②評価調査者研修修了番号

19-13
SK15017
S15006

③施設名等

名称：	山形県立鶴岡乳児院
施設長氏名：	池田 俊治
定員：	30名
所在地（都道府県）：	山形県
所在地（市町村以下）：	鶴岡市道形町49 - 6
T E L：	0235 - 22 - 1317
U R L：	
<b>【施設の概要】</b>	
開設年月日	1951/3/31
経営法人・設置主体（法人名等）：	山形県
職員数 常勤職員：	41名
職員数 非常勤職員：	7名
専門職員の名称（ア）	医師
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（イ）	看護師・准看護師
上記専門職員の人数：	11名
専門職員の名称（ウ）	保育士
上記専門職員の人数：	14名
専門職員の名称（エ）	管理栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（オ）	調理師
上記専門職員の人数：	8名
専門職員の名称（カ）	臨床心理士
上記専門職員の人数：	1名（兼務）
施設設備の概要（ア）居室数：	4室
施設設備の概要（イ）設備等：	乳児・幼児寝室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

#### ④理念・基本方針

##### 【理念】

- 1子どもたちの生命を守り、健全な心身の発達を目指します。
- 2子どもたちの人権を尊重し、最善の利益を守ります

##### 【基本方針】

- 1安全・安心な養育環境と体制の整備
- 2保育看護の専門性の向上
- 3個別的養育の実践
- 4児童養護施設、里親及び児童相談所との連携・協働による継続的な家庭支援の推進
- 5地域との交流促進（ボランティア含む）と地域社会への貢献

#### ⑤施設の特徴的な取組

・安全な養育環境で幼児一人ひとりの生命と人権を守り、心身の発達を支援する養育を行っています。  
養育に関して外部有識者からの客観的な視点での検証を定期的に行い、職員の資質並びに養育技術の向上を図り、入所児の最大の利益を追求することを目的に安全委員会を設置しています。

#### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2017/4/28
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/10/19
受審回数	1回
前回の受審時期	平成26年度

#### ⑦総評

##### ◇特に評価が高い点

##### 1、愛着関係の形成について

本院は入所から退所まで一人の職員が一貫して担当する「担当養育制」を取り入れています。7ヶ月未満の乳児には1対1保育、7ヶ月以上の院外保育では月1回担当職員が企画した外出を2人で楽しみ、月齢の近い少人数での活動や食事を一緒にして寄り添いながら信頼関係に繋げています。少しずつ担当職員が判るようになり愛され大切にされていると感じ、笑顔や表情にも表われてきます。臨床心理士と連携しながら定期的に発達検査やSSP検査（新奇場面法）を行って安定型・不安型などの愛着関係の把握に努め、子どもの成長を丁寧にきめ細かく見守っています。

##### 2、食育計画について

生後5ヶ月を目安に離乳食を始め、初期・中期・後期・幼児食（刻み、普通）へと段階を踏み無理強いつけず一人ひとりに合わせて移行しています。食物アレルギー対応として初めての食材は一口から試し職員が声がけて反応を見守り、にがてな食材も切り方を工夫して少しでも食べられるように栄養士や調理部門と連携し、発達状況の把握や体調・栄養管理に取り組んでいます。調理風景や盛り付けの様子を目の前で見せながら食物への興味を引き出しています。畑での野菜収穫やおやつ作りを職員と一緒に体験し、食育計画に『「食べることは楽しい」「食べるのが大好き」と感じる子どもになろう!!』を目標に掲げ、子どもの成長に合わせた食育を実施しています。

##### ◇改善を求められる点

##### 1、安全対策について

内部委員による医療安全委員会やヒヤリハット係を設置してリスクマネジメント体制を構築しているが、乳幼児は活発な動きを見せることから予測しない事故発生を危惧し、今年度7月に外部委員（有識者）を入れた安全委員会を立ち上げています。委員からの客観的な視点での意見を参考に職員の資質並びに養育技術の向上を図り、子ども達にとって安心・安全な養育環境で生活が出来るように更なる取組を期待します。

##### 2、マニュアルの整備について

事故発生時対応など子どもの状態に応じて緊急時の対応を求められる場面を予測し、養育・支援についての標準的な実施方法を職員に周知して、共通の認識を持って行えるよう未整備のマニュアル作成を期待します。

#### ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価の実施にあたっては、評価機関の方から丁寧な対応をしていただきありがとうございました。  
今回の評価で良い評価をいただいた項目については引き続き継続し、改善が必要な項目については、職員全体で問題意識を共有し改善に向けて努力をいたします。  
自分達の業務内容を評価することにより日々の業務に追われて見過ごしがちな業務の振り返りができたことや課題と考えていたことを他の職員と共有できたことは、業務全般において改めて考える機会を与えていただいたと捉え、大変有意義であったと思っております。  
今回の評価内容について、職員間で話し合いを進めながら、子ども達に最善の養育環境を提供できる施設を目指したいと思っております。

## 第三者評価結果（乳児院）

### 共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

#### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結 果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>理念を掲げ、院長が今年度の運営方針重点目標を基本方針として年度初めの全体会議で表明し、職員に周知を図っている。保護者には年2回発行する広報誌に掲載し、家庭通信と一緒に送付している。</p>	

#### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結 果
<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>院長は全国規模の各種の会議・研修会に積極的に参加し、国の方針や他県の情報を得て本院の現状や安全対策等の課題を把握して分析している。</p>	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。		
<b>【コメント】</b> 院長は職員不足解消のために山形県に要請して増員が図られ、安定的かつ良質な養育・支援に取り組んでいる。		

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
		<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
		<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
		<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
		<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	
<b>【コメント】</b> 中・長期計画は山形県の児童福祉施設として上部組織の子育て推進部において策定され、職掌範囲の中で業務が行われている。			
②		5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
		<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	
		<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	
		<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
		<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
<b>【コメント】</b> 運営方針として単年度の事業計画を策定し、年度初めに今年度の運営方針重点目標と共に職員に周知を図っている。			

(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	

【コメント】

前年度の養育・支援の評価・見直しを職員全員で行い、現場の声を踏まえて運営費の予算内で山形県と相談しながら年度の運営方針を決め実施している。

②	7 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

保護者に年2回発行の広報誌「レインボーハウスだより」を送付し、夏祭り等の行事には案内して参加の呼びかけをしている。

#### 4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第一号 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的受審している。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

グループ会議・保育会議・業務研究会の流れで毎月養育・支援の見直しと翌月への改善が行われ、質の向上に取り組んでいる。職員による自己評価「処遇(理念)自己チェック」を定期的実施し業務検討会で検討している。

②	<p>9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>外部委員(有識者)からの客観的な視点での意見を参考に、職員の資質並びに養育技術の向上を図るために安全委員会を今年度7月に発足し、事前に職員アンケート調査を実施して結果をもとに検討し、業務の改善に繋げている。</p>		

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1)	<p>施設長の責任が明確にされている。</p>	第一号 評価結果
①	<p>10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>院長は児童相談所長と兼務であり、年度初めの全体会議で今年度の運営方針重点目標と共に自らの役割と責任を表明している。年2回発行の広報誌「レインボーハウスだより」にも掲載し、関係機関及び関係者に情報提供している。</p>		
②	<p>11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>院長は乳児院と児童相談所の両施設関連の多種の会議・研修会に積極的に参加し、幅広い分野の知識や新しい情報などを職員にも業務研究会等で周知を図っている。</p>		



(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		a
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	
【コメント】		
院長は児童相談所長と兼務の立場から養育・支援の現状をよく理解して職員の意見を積極的に聴き取り、改善を要するものは前向きに捉え実践に取り組んでいる。職員は半年ごとに業務目標を作成して自己評価を行い、院長は面接の中で成果を確認しアドバイスをしている。		

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
【コメント】		
職員の配置や職員不足にも理解を示して山形県に増員(臨時・パート職員)を要請し、現場の働きやすい環境を整備して安定的かつ良質な養育・支援の実施に取り組んでいる。		

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		a
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	
【コメント】		
職員採用については、国の基準や山形県の方針にもとづいて必要とされる人材を確保し、夜間の勤務体制についても保育士と看護師のペアで安全管理に努めている。県が実施する職員研修や全国乳児福祉協議会が主催する研修の他にも様々な研修が実施される中で計画的に職員の育成が図られている。		

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。	

【コメント】

人事管理については、山形県の規程にもとづいて人事考課を実施し、定期的に自己評価や人事評価を行い、職員の専門性や職務の成果を評価しながら改善策を見出し取り組んでいる。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

責任体制を明確にして就業規則にもとづいて業務を行い、ワークライフバランスにも配慮されている。福利厚生は山形県の共済組合等を通じて職員の余暇活動や日常生活に対する支援と働きやすい職場づくりに励んでいる。



(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

職員が半年ごとに目標を立てて自己評価を行い、院長との面接でその成果を確認し、更に次に向けて取り組んでいる。職員一人ひとりが施設の目標や方針を理解し、知識や経験に応じた具体的な目標を掲げてモチベーションを高めている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

業務概要に職員の研修計画について明記しており、年間研修計画を作成して計画的に教育・研修を行っている。職員全てを対象に内部研修や外部研修を通して必要とされる専門知識や技術の向上に励み、全国社会福祉協議会や全国乳児福祉協議会の他に関係団体が主催する研修会等にも積極的に参加している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	

【コメント】

階層別、職種別、テーマ別にその職員が必要とする分野を把握し、年度初めに計画を作成して専門性が求められる中で内部・外部の研修を通してより一層の向上を目指し、職員一人ひとりに教育・研修の機会が与えられている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	
【コメント】		
実習生等の受け入れについては、マニュアルを策定し学校側の方針とカリキュラムにもとづき施設として積極的に取り組んでいる。保育士実習の担当者が実習生にオリエンテーションを通じて研修の充実が図られるよう指導している。		

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	
【コメント】		
山形県のホームページの中に乳児院の紹介とパンフレットは載っているが、乳児院独自のホームページは作成されていない。イベントの実施や広報誌等の作成についても守秘義務を強化し個人情報の保護に努めている。		

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的確認されている。	
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	
【コメント】		
山形県の監査委員会による監査を受け、指導助言も得るなど適正な施設運営が行われている。		

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1)	地域との関係が適切に確保されている。	第二号 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	
【コメント】		
子どもと地域との交流を広げようと近隣にも案内を出して夏祭りを開いたり、近くの保育園からは子ども達が訪れて一緒に院庭で遊んだりしている。保育園からの催しの案内には子どもへの配慮から参加する機会は少なく、日々の買い物や散歩を通してふれあうことで情緒を養うよう努めている。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	
【コメント】		
ボランティア受け入れマニュアルを作成し、基本姿勢を明確にして協力を得ている。学校教育における体験学習や職場見学・高校生のインターンシップへの協力などについては乳児院を訪れる児童・生徒に守秘義務が守れるか不安なことから実施されていないが、注意事項等を文書化し学校教育や体験学習等への協力体制を整備することが望まれる。		

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

児童相談所と同一建物内にあり、院長が児童相談所長と兼務する中で乳児院では子どもの出身市町村やその他の関係機関と直接関わる機会はなく、児童相談所と連携を図り入所児や保護者などの情報も定期的に更新され、児童相談所で行われるケース検討会にも参加している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	c
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	

【コメント】

乳児院としての特性により、守秘義務や個人情報等を前提にして積極的な地域交流は行われていない。近隣保育園に院庭を開放し一緒に遊んだりしているが、公に地域に開放したり提供する仕組みはない。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	

【コメント】

地域の民生委員や関係機関との話し合いはすべて児童相談所に対応することになっており、電話相談があった場合でも窓口として児童相談所を紹介するなど地域への積極的な取組は行われていない。庄内地区の市町村とショートステイの委託事業を契約し受け入れている。

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第二種 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	

【コメント】

施設としての基本姿勢を示し、全職員に全国乳児福祉協議会の「処遇（理念）自己チェック表」を引用して定期的に自己評価を実施し保育の振り返りをしている。また、全国乳児福祉協議会発行の養育指針を用いて勉強会を設け、共通理解を図り質の向上を目指している。



②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	

【コメント】

山形県のプライバシー保護規程をもとに鶴岡乳児院としてのマニュアルを整備しているが、おむつ交換などの生活場面におけるプライバシー保護についても、職員への研修会を通じて周知を図るよう期待したい。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	
	<input type="checkbox"/> 保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

入所予定の保護者への説明は児童相談所が実施しており、初めて入所する保護者にはパンフレットを配布し、入所後は年2回送付の家庭通信と広報誌（レインボーハウスだより）で情報提供をしている。



②	31 養育・支援の開始・過程において保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、保護者等の自己決定を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

養育・支援の開始・過程における内容に関する説明や保護者からの同意を得ることは児童相談所が実施している。乳児院で保護者へ自立支援目標を説明する機会はないが、支援開始時にパンフレットを配布している。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

措置変更や里親には子どもの生活状況表を配布し、家庭復帰の場合は保護者との引継ぎ時に予防接種・病歴・おむつの当て方など退所後困らないように説明している。退所後家庭支援専門相談員が心配ごとなどがなく保護者に声がけをしたり、また子どもの様子を見に訪問するなど配慮している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第二  
評価結  
果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもとの日々の関わりのなかで、子どもの満足を把握するように努めている。	
	<input type="checkbox"/> 職員等が、保護者等とのコミュニケーションを可能な範囲で図り、定期的に保護者等の満足を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した子どもの満足を集約する担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】

保護者には児童相談所と連携し可能な範囲で確認している。子どもの担当は入所時から退所時まで一人の職員が担い、子どもとの信頼関係に繋げSSP検査（新奇場面法）を行い愛着関係の把握に努めている。

(4) 保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	c
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、保護者等に必ずフィードバックしている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た保護者等に配慮したうえで、公表している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

意見箱は設けているが苦情解決体制が未整備なので第三者委員の設置を期待したい。

②	35 保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	c
	<input type="checkbox"/> 保護者等が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に行えることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	

【コメント】

苦情相談については児童相談所が担当しているため、乳児院では個別の相談は行っていない。

③	36 保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、保護者等が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、保護者等の意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

保護者から遊びや離乳食のことで育児相談がある場合は一緒に行き、職員は連絡ノートで周知し共有している。相談や意見を受けた場合の対応マニュアルの整備に期待したい。

		第100 評価結果
<p>(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。</p>		
①	<p>37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。</p> <p><input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>医療安全委員会やヒヤリハット係を設置し、危険への気づきや事故防止対策などを検討するリスクマネジメント体制を構築している。事故発生を危惧して24時間態勢で乳児寢室に「職員が常駐すること」「15分ごとの見回りは職員2人で呼吸確認すること」を強化し、新たに呼吸停止など異常がある場合に警報発する「体動センサー」や「ベビー用寝返り防止枕」を取り入れている。今年度7月に外部委員を入れ客観的な視点での検証を行い子どもの安全な生活を守るために「安全委員会」を立ち上げている。今後、事故発生時対応マニュアル等の整備と組織的・継続的な要因分析と改善策・再発防止策の検討を行い更なる事故防止の徹底を図ることが望まれる。</p>		
②	<p>38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>子どもの定期健康診断・予防接種を行い感染症予防に努め、看護師による医療係を設け医療関係マニュアルを整備して、感染症対策について職員への周知を図っている。また、吐物時に必要な物品を常備し、吐物処理方法を実習するなど迅速に対応出来るよう取り組んでいる。</p>		

③	<p>39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>災害時の対応体制が決められている。</p> <p><input type="checkbox"/>立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/>食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/>防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。</p>	a
【コメント】		
非常時や 災害時に備え児童相談所と連携し防災計画を策定している。毎月様々な訓練を実施し、子どもの安全を最優先に迅速な避難が出来るように取り組んでいる。非常時の持ち出しとして母子手帳や薬手帳・医薬品を確認し、昨年は資材庫を設置して簡易布団や衣類・水・ミルクなどの備蓄を行っている。		

## 2 養育・支援の質の確保

	(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第二種 評価結果
①	<p>40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法が適切に文書化されている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。</p>	a
【コメント】		
養育指針を全職員に配布し乳児院の保育マニュアルを作成している。年間保育計画は子どもが1歳4ヶ月未満児・1歳4ヶ月以上児のグループごとにそれぞれの目標を定め、グループ会議・保育会議・業務研究会で実施方法を確認している。		
②	<p>41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。</p> <p><input type="checkbox"/>養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/>検証・見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。</p>	a
【コメント】		
個別処遇方針の記入時期を6ヶ月ごとに定め、個別の月間カリキュラムを策定し、PDCA（計画策定・実行・評価・見直し）を継続的に行い、養育・支援の質向上に努めている。		

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、保護者等の意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	

【コメント】

入所時に乳児院でアセスメントを実施し、児童自立支援計画を策定している。子どもの発達に合わせ繰り返しアセスメントを行い個別処遇方針・月間カリキュラムに繋げ支援に反映している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、保護者等の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

児童自立支援計画は入所時に児童相談所の情報をもとに作成している。個別処遇方針は日頃関わる担当職員が6ヶ月ごとに策定・見直しを行い、目標を掲げて一人ひとりの健やかな発達を目指している。



(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	

【コメント】

生活記録は定められた保育日誌に、子ども一人ひとりの記録はカルテに記載し、個別の月間カリキュラムに沿った書き方の統一を図っている。職員は勤務交代時に支障がないように引継ぎ事項などは連絡ノートで共有している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。	

【コメント】

個人情報保護マニュアルを整備し、職員への周知を図っている。個人情報の取り扱いについては保護者の意見を確認したうえで行われている。電子データは持ち出し禁止になっており、セキュリティチェックは山形県で行っている。



内容評価基準（22項目） A-1 子ども本位の養育・支援

		第一号 評価結果
(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		
①	<p>A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</p> <p><input type="checkbox"/>養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているか、振り返り検証する機会が設けられている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員が、子どもの最善の利益の実現を目指し、子どもによりそい、その思いを代弁する役割と使命を共通理解し、その実現に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの最善の利益を実現させるために、日々の養育・支援に関する姿勢や子どもへの接し方等について、振り返り改善する取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設全体の養育・支援の質の向上を図るために、研修や自己研鑽によって職員が専門性を高めている。</p> <p><input type="checkbox"/>養育実践や養育の内容に関する職員の共通理解や意見交換を図る機会を設け、協働性を高めるよう取り組んでいる。</p>	a
【コメント】		
「処遇（理念）自己チェック表」を用いて客観的に自己評価を行い、日ごろの養育を振り返り意識向上を図り子どもの最善の利益を目指した支援に取り組んでいる。		
(2) 被措置児童等虐待対応		
①	<p>A2 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/>「就業規則」等の規程に具体的な例を示して体罰等の禁止を明記している。</p> <p><input type="checkbox"/>体罰等があった場合を想定して、施設長が職員にその原因や体罰等の方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。</p> <p><input type="checkbox"/>体罰等の起こりやすい状況や場面について、研修や話し合いを行い、体罰等を伴わない的確な援助技術を習得できるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/>体罰等の禁止を職員に徹底するため、日常的に会議等で体罰等を取り上げ、行われていないことを確認している。</p>	a
【コメント】		
安全委員会で子どもの暴力やトラブルに関する職員へのアンケート調査と事実を確認し、アンケートの集計結果は業務研究会や全体会議で開示されている。院長から子どもへの対応や職員の不祥事についても注意喚起を行い周知を図っている。		

②	<p>A3 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりの防止について、具体的な例(ヒヤリハット等)を示し、職員に徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりに迅速に対応できるように、乳幼児からの訴えやサインを見逃さないよう留意している。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うようなリスクマネジメントがなされている。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりの起こりやすい状況や場面について、研修や話し合いを行い、これによらない援助技術を習得できるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制(配置や担当の見直し等)を検討している。</p>	a
---	---	---

【コメント】

子どもへの不適切なかかわりなどがいないか早期発見に努めている。日ごろの支援の中での気づきや注意を要するものには安全委員会で検討している。

③	<p>A4 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたとき、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告制度について、研修会などで職員に周知している。</p>	b
---	--	---

【コメント】

入所時、職員は子どもの身体で気になる場所があれば児童相談所に報告し、子どもの健康診断は嘱託医が行っている。被措置児童虐待の届出・通告制度についての対応マニュアルの整備はなく、職員への研修も行われていないため今後の取組に期待したい。

## A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第一号 評価結果
①	A5 子どものこころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 乳幼児に対する受容的・応答性の高いかわりを心がけている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもと養育者の信頼関係が築かれ、子どもが不安になった時など、いつでも応じられるように養育者が側にいるよう配慮されている。	
	<input type="checkbox"/> どの乳幼児も保護者等、あるいは担当養育者、里親等、特定のおとなと個別のかかわりを持つことができる体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 特別な配慮が必要な場合を除いては、基本的に入所から退所まで一貫した「担当養育制」をとっている。	
	<input type="checkbox"/> 担当養育者と個別のかかわりを持つことができる時間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 語りかけや「だっこ」「おんぶ」などの身体のふれあいを通して心の安定を図り、心地よい状態を共有できるよう努めている。	
	<input type="checkbox"/> 被虐待経験のある乳幼児等特別な配慮が必要な乳幼児に対しては、個々の状態に応じた関係づくりを行っている。	
【コメント】 入所から退所まで一人の職員が一貫して担当する「担当養育制」を取り入れている。7ヶ月未満の乳児と担当職員との1対1保育や、7ヶ月以上は月1回担当職員が企画した外出を2人で楽しむ院外保育を実施して愛着関係を育んでいる。		
②	A6 子どもの生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 日々の生活リズムは発達や子どもの気持ちに沿いながら一人ひとりにあった形で進められている。	
	<input type="checkbox"/> 施設に子どもが安心して暮らせる温かな家庭的雰囲気がある。	
	<input type="checkbox"/> 居室が安心して、くつろいだり、落ち着ける場所になっている。	
	<input type="checkbox"/> 安定した環境の中、おもいおもいに遊ぶことができる安全で使いやすい遊具などがあり、自由に遊びに取り組めるよう配慮されている。	
	<input type="checkbox"/> 他児と区別された「自分のもの」といえる玩具、食器、衣類、戸棚などの個別化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 満足感の得られる養育者との遊びの時間を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 自然と触れ合える外遊びが養育者との十分なやりとりを交え提供されている。	
【コメント】 調理室での調理風景や職員の盛り付け、おやつ作りは子どもの成長に合わせて目の前で見学している。家庭的養護の必要性を考慮し、担当職員が日帰りで自宅に連れて行き一般家庭生活を体験している。		

③	A7 子どもの発達を支援する環境を整えている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育者は、月齢による発達特性(自我の表出等)を認識し、養育に当たっている。	
	<input type="checkbox"/> 入所までの生活環境や身体的成長の差等から生じる子ども一人ひとりの違いを十分に把握し、尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの欲求や要求に対し、抱いたり声をかけるなど、タイミング良く気持ちを受け止め対応している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個々の発達や状態に応じた適切な言葉を用い、穏やかに言葉かけをしている。	
	<input type="checkbox"/> 言葉を獲得し話し始めた子どもの問いかけには、できる限りその場で応答している。	
	<input type="checkbox"/> 「いや」など駄々をこねたり、自分を表現する力がまだ十分でない子どもの気持ちをくみ取ろうとしている。	

【コメント】

職員自らの養育の振り返りとして「処遇（理念）自己チェック」を定期的に行い、不適切な関わりがないかを確認し係りがまとめて業務検討会で検討する体制が整備され、全職員で共有している。

(2) 食生活

①	A8 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 授乳は、自律授乳を基本としつつ、個々のリズムや体調に合わせて量や時間を工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 授乳時は、乳幼児を抱いて、目を合わせ、やさしく言葉をかけ、ゆったりとした気持ちで飲めるように配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 授乳後は、吐乳・溢乳等を防ぐために排気を十分に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 一人飲みをさせていない。	
	<input type="checkbox"/> 生体リズムの乱れなどで自律授乳や自発的意思の授乳が難しい乳幼児には、その子の状態に応じた授乳を工夫している。	

【コメント】

月齢の目安はあるが一人ひとりの発達に合わせたミルクの分量、授乳間隔で乳幼児が欲しいときに欲しいだけという自律授乳を基本に取組、職員は泣き声で欲求がわかるようになっている。

②	A9 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 在胎期間も含め、入所に至るまでの経過や発育、発達状況を踏まえ、一人ひとりに合わせた食の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 個々の状態に合わせて離乳を開始し、様々な食べ物や味に慣れさせている。	
	<input type="checkbox"/> 食事をいやがったり遊びだしてしまう場合にも、時間をかけてゆったりとした気持ちで与えている。	
	<input type="checkbox"/> 噛む力を養うために、食品の種類や調理方法を工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 栄養士や調理員等は養育者とともに、咀嚼や嚥下の状況を確認し発育状況や体調を考慮しながら離乳食を進めている。	

【コメント】

離乳食には1、エネルギーや栄養素の補給2、咀嚼(噛むこと)の発達3、味覚の発達と大きく3つの目的があり、生後5ヶ月位から始め離乳食(初期・中期・後期)から幼児食(刻み・普通)への移行は一人ひとりに合わせて栄養士と連携を取りながら進めている。

③	A10 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 食事場所は清潔に保たれ、明るく楽しい雰囲気でき食事ができるよう工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが食べやすいように、身体に合わせてテーブルと椅子の高さを適切に調整している。	
	<input type="checkbox"/> 乳幼児が自分で食べようとする意欲を育てられるように、手に持って食べやすいものを用意したり、食器やスプーンなどに触れられるように配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 食前の手洗い、食前食後のあいさつ、食後の歯磨きなどが定着するよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 養育者や他児と一緒に食事を楽しんでいる。	
	<input type="checkbox"/> 食事の食べ方や量にばらつきがあっても全部食べることにこだわらず、おいしく楽しく食べられるように、子どもと視線を合わせ、様子をみながら言葉をかけるなど雰囲気づくりに気を配っている。	
	<input type="checkbox"/> 日々の食生活を通じて食べたいものや好きなものが増える工夫がされている。	
	<input type="checkbox"/> お腹がすくりズムが持てるよう、朝食・昼食・夕食の間隔は適正になっている。	
	<input type="checkbox"/> 栄養士、調理員等が、食事の様子をみたり、介助するなか、一人ひとりの発育状況や体調を考慮した調理を工夫している。	

【コメント】

食育計画の目標に「食べることは楽しい」「食べるのが大好き」と感じる子どもになろう!!を掲げている。朝食はなかよしルームで全員で、昼・夕食は各保育室で家庭的で楽しい食事になるよう年齢別の小グループで職員も一緒に食べている。

④	A11 栄養管理に十分な注意を払っている。	a
	<input type="checkbox"/> 十分なカロリーと栄養のバランスよい献立が、栄養士により準備されている。	
	<input type="checkbox"/> 栄養だけではなく季節感を取り入れた食事が提供されている。	
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の体調、疾病、アレルギー等に個別に対応した食事を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の嗜好や栄養摂取量の把握に努め、献立に反映している。	
	<input type="checkbox"/> さまざまな「食育」への取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 発達に応じて、食事の準備や食事作りを見たり、かかわる機会を持ち、食べることに興味関心を持つことができるよう工夫している。	

【コメント】

離乳食で初めての食材を口にするときは一口から始め、にがてな食材は栄養士と連携して切り方を工夫するなど職員は声がけしながら様子を見守り、発育状況の把握や体調・栄養管理に取り組んでいる。畑での野菜収穫やおやつ作りを職員と一緒に体験している。

(3) 衣生活

①	A12 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 衣類は吸湿性・通気性に富み、清潔を保ち、肌に刺激の少ない材質を使用している。	
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の体型を考慮し、活動を阻害せず、着脱が容易なものを使用している。	
	<input type="checkbox"/> 気候調節へ配慮し、寒暖の状態に適した枚数と厚さにしている。	
	<input type="checkbox"/> 寝ている生活が主などときは前開きのもものを、動きが活発になつたら活動的で腹部や背中に出ないものを選ぶなど、生活実態に適し、個々の発達に応じた衣類管理を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 衣類は個別化し、個人別に収納している。	

【コメント】

衣類は共有の物もあるが一人ひとり個別化し、個人ごとに管理・収納している。全体での衣服購入予算があり、季節ごとに前年の物を確認しながら補充している。衣服への自我の芽生えにも職員と相談しながら対応している。



(4) 睡眠

①	A13 乳幼児が快適に十分な睡眠をとれるよう取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 室内の環境として、温・湿度、換気、明るさ、静かさ、音楽などを快適に保っている。	
	<input type="checkbox"/> 寝具の環境として、肌に触れる素材は綿素材を用い、広さ、形状、硬さなどを快適に保っている。	
	<input type="checkbox"/> 睡眠時の状況を観察している。	
	<input type="checkbox"/> 快適に十分な睡眠をとれるよう、個々の乳幼児の発達・心理に配慮した職員の対応など具体的な独自の取組を行っている。	

【コメント】

ベビーベッドにはベビー用寝返り防止枕・体動センサーを備え付けており、乳児がベッド柵につかまり立ちするのを目安に布団に変更するなど安全に睡眠できるよう支援している。寝具はシーツ・おねしょマット以外は個別の物を使用し、洗濯・乾燥を定期的に行い清潔に保たれるように留意している。

(5) 入浴・沐浴

①	A14 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴を毎日している。	
	<input type="checkbox"/> 浴室・沐浴槽などの設備やタオル・バスタオルなどの備品は常に清潔が保たれている。	
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の年齢、発達、発育等、個々の状況に応じた入浴方法がとられている	
	<input type="checkbox"/> 安心して、心地よく、楽しい入浴・沐浴になるような言葉掛けなどの配慮がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴に際し、おもちゃ等を用意し、心地よい体験になるよう工夫している。	

【コメント】

子どもの発育状態など一人ひとりの状況を把握しながら毎日入浴し、複数の職員で順番よく介助している。無理に浴槽に浸らせることなく、慣れるまでは恐怖心を取り除き安心して入れるよう支援している。

(6) 排泄

①	A15 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> おむつ交換のときに、言葉をかけながら身体をマッサージなどして、おむつ交換が心地よいものであることを伝えるように心がけている。	
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、排泄への興味を持てるように配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、おむつが濡れていないときは、便座に誘導するなどして自分から便座に座る意欲を持てるように配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、個々の幼児のリズムや気持ちに合わせて誘導を行っている。	

【コメント】

排泄についてのマニュアルがあり、子ども同士で仕草を真似ながら興味を持たせて出来た時にはほめて一緒に喜び、徐々に覚えるよう排泄を促しトイレトレーニングを行っている。

(7) 遊び

①	A16 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 玩具の色・形や音色などを選ぶように工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 戸外に出かけ、外界への興味を広げられるように配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 模倣遊びや職員や他の乳幼児とのふれあい遊びを通して、情緒の育成を図り、人との豊かなかわりができるように配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 養育者や他の子どもと楽しく遊ぶことができるよう心がけている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの五感を育てる遊びが提供できるよう工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 月齢により、収納場所を設け、玩具の個別化をし、自分の物という喜びや認識ができるよう工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの手の届く所に玩具の収納場所を設け、年齢によっては自由に出し入れして遊べるようにしている。	

【コメント】

年上の子どもの遊びを見ながら一緒に加わり、興味を持ちながら自然に遊ぶ子どもの様子を見守っている。玩具は色や形の違う様々なものを成長に合わせて用意し、自分だけの大切なおもちゃもあって戸外での遊びも多く取り入れ、遊びや生活体験を通じて言葉や運動機能の発達と情緒の育成を図っている。

(8) 健康

①	A17 一人ひとりの乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 健康観察記録を作成し、日々の健康状態の変化が一目で把握できるように工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 日常的に医療機関等と適切に連携するよう努めている。	
	<input type="checkbox"/> 嘱託医による定期健康診断では、身体発育の状態や精神・運動発達・情緒的問題等について総合的な診察を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の条件や集団の構成に応じて、適宜予防接種を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 異常がある場合には、医療機関を受診するなど適切に対応している。	
	<input type="checkbox"/> ミルクや離乳食を開始した当初は、発疹などアレルギー症状の出現に注意し、異常所見が見られた場合には速やかに医師に相談し対応策を講じている。	

【コメント】

日常の健康管理については、マニュアルに沿って検温などを記録し、子どもの状態の変化を把握している。異常が確認された場合には嘱託医と連携して対応し、定期健診と予防接種も行っている。

②	A18 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	a
	<input type="checkbox"/> 病・虚弱児等個々の健康状態の変化が、常に把握できるように工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 服薬管理表等により、適切な服薬管理を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 専門医や主治医の協力のもと、乳幼児の健康状態に応じた療育計画や発達支援計画などを含む支援のプログラム等を作成して、乳幼児の適切な発達を支援している。	
	<input type="checkbox"/> 専門医や主治医による定例的な診断を受けている。	
	<input type="checkbox"/> 異常所見がみられた場合には、速やかに専門医や主治医に相談できる連絡体制をとっている。	

【コメント】

現在は病・虚弱児の対象となる子どもは入所していないが、看護職員が担当者となり医師の指示を仰いで支援に当たるシステムになっている。

(9) 心理的ケア

①	A19 乳幼児と保護者等に必要な心理的支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする乳幼児について、保護者等への支援も視野に入れた自立支援計画や養育計画に基づき、心理支援内容が明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 心理支援内容には、個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的支援が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 心理職をおき、乳幼児にも保護者等にも心理的な援助を行える体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な乳幼児や保護者等への対応に関する職員研修やコンサルテーションが行われている。	

【コメント】

臨床心理士は児童相談所からの兼務で発達検査等を行っており、心理的ケアを必要とする子どもに対してはアドバイスをもらい職員間で共有し対応している。保護者等に対する心理的支援については児童相談所において行われている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A20 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員が中心となって施設と家族との信頼関係を構築するように努めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設が家族と共に子どもの成長を喜び合う雰囲気を大切にしている。	
	<input type="checkbox"/> 面会時に必要に応じて保護者等の養育スキルの向上を支援している。	
	<input type="checkbox"/> 保護者等の相談に積極的に応じるための保護者等面接の設定等、専門的なカウンセリング機能の充実に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員は、家族に寄り添い、保護者等の言葉を傾聴する役割を担っている。	
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の協働養育者として、日常生活の様子を写真やお手紙に書いて家族に伝えている。	

【コメント】

保護者からの相談は家庭支援専門相談員を中心に対応し、養育以外の相談や家族との関係調整については児童相談所で応じる体制が確立されており、互いに連携して情報を共有している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A21 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援に関する具体的なプログラムや配慮事項が明記されている。	
	<input type="checkbox"/> 入所理由の理解とケアの方向性についてアセスメントしている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもと家族との関係調整については、定例的かつ必要に応じて児童相談所等と協議を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、施設宿泊、一時帰宅などを計画的に設定し、乳幼児と保護者等との関係性が好転し、保護者等の養育意欲が向上するよう支えている。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅後の乳幼児の様子を注意深く観察し、家族からの不適切なかかわりがあった場合には、その発見ができるように努めている。	
	<input type="checkbox"/> 課題の内容によっては適切な機関につなげられるよう、地域の精神、心理相談のできる機関を十分に把握し、連携をとっている。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所を中心とした他機関との協働により、虐待の未然防止と家族機能の再生に向けてのサービス資源の提供などのソーシャルワークを行っている。	

【コメント】

親子関係の再構築のための取組については、児童相談所が他機関と連携を図り、乳児院では児童相談所からの情報を共有している。再構築に向けたケース会議の中で児童相談所が方針を決定し、乳児院では養育支援の範囲内で関わっている。

(12) スーパービジョン体制

①	A22 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性の向上や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	

【コメント】

グループのリーダーや保育長等がアドバイスできる体制にはあるが、スーパーバイザーとしての任命はされていない。人材育成や権利擁護と職員の支援技術の向上を図るうえでスーパーバイズ体制を築くことが望まれる。